

履歴書

(2017年4月20日)

[氏名]

武田 史郎

[現在の所属・連絡先]

- 京都産業大学経済学部教授
- 住所：603-8555 京都市北区上賀茂本山，京都産業大学，第一研究室棟 843
- Email アドレス：shiro.takeda@gmail.com
- ウェブサイト：<http://shiro.takeda.org>

[現在の研究テーマ]

- 排出量取引等の「地球温暖化対策の分析」
- 国際間の労働移動・外国人労働受入の分析
- 応用一般均衡分析 (Computable General Equilibrium Analysis) の研究

[学位]

- 1999年3月：経済学修士，早稲田大学，修士論文タイトル：「不確実性下のトランスファー」.
- 2005年3月：博士（経済学），一橋大学，博士論文タイトル：“An Economic Analysis of Environmental Regulations”

[学歴]

- 1995年：早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
- 1999年：早稲田大学大学院経済学研究科修了
- 2003年：一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学

[職歴]

- 2003年4月－2005年3月：関東学園大学経済学部専任講師
- 2005年4月－2007年3月：関東学園大学経済学部助教授
- 2007年4月－2012年3月：関東学園大学経済学部准教授
- 2012年4月－現在：京都産業大学経済学部教授

[その他の職歴]

- 2016年6月－：早稲田大学・環境経済・経営研究所・招聘研究員

- 2012年4月－2016年3月：早稲田大学・環境と貿易研究所・招聘研究員
- 2012年4月－2016年3月：内閣府経済社会総合研究所客員研究官

[論文 (刊行済み)]

※付きは査読付き

- ※ 武田史郎 (2017) 「排出量取引と自主的行動による CO2 削減の効果－応用一般均衡モデルによる分析－」, 『環境科学会誌』, 30(2), pp.141-149,
<http://doi.org/10.11353/sesj.30.141>
- ※ Yamazaki, Masato., and Takeda, Shiro (2016). “A Computable General Equilibrium Assessment of Japan’s Nuclear Energy Policy and Implications for Renewable Energy.” *Environmental Economics and Policy Studies*.
<http://doi.org/10.1007/s10018-016-0164-3>
- 武田 史郎、山崎 雅人、川崎 泰史、吉岡 真史 (2016) 「GTAP9 と GTAP-Power データベースの特徴」, ESRI Research Note No.26, 2016年7月
http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_rnote/e_rnote030/e_rnote026.pdf
- ※ 白井大地・武田史郎・落合勝昭. (2013). 「温室効果ガス排出規制の地域間 CGE 分析」, 『環境経済・政策研究』, 6(2), pp.12-25. <http://ci.nii.ac.jp/naid/40019823794/>
- ※ Yamazaki, Masato and Takeda, Shiro (2013). “An assessment of nuclear power shutdown in Japan using the computable general equilibrium model.” *Journal of Integrated Disaster Risk Management*, 3(1), 36–55.
<http://doi.org/10.5595/idrim.2013.0055>
- ※ Takeda, Shiro, Arimura, Toshi H., Tamechika, Hanae, Fischer, Carolyn, & Fox, Alan K. (2013). “Output-based allocation of emissions permits for mitigating the leakage and competitiveness issues for the Japanese economy.” *Environmental Economics and Policy Studies*, 16(1), 89–110.
<http://doi.org/10.1007/s10018-013-0072-8>
- 武田史郎・鈴木 晋・有村俊秀 (2013) 「温暖化対策における国境調整措置の動的応用一般均衡分析」, 『経済分析』, 第 186 号,
http://www.esri.go.jp/jp/archive/e_dis/e_dis291/e_dis291.html
- ※ Takeda, Shiro, Horie Tetsuya, Toshi H. Arimura, (2012), “A Computable General Equilibrium Analysis of Border Adjustments Under The Cap-And-Trade System: A Case Study Of The Japanese Economy”, *Climate Change Economics*, Vol.3, No.1.
<http://dx.doi.org/10.1142/S2010007812500030>
- 武田史郎 (2011) 「応用一般均衡モデルによる温暖化対策の経済的影響評価」, 『環境情報科学』, 第 40 巻, 第 2 号, pp.27-31,
<http://www.ceis.or.jp/search/entries/article/1/40/6533>

- 有村俊秀・武田史郎 (2011) 「国際競争力・炭素リーケージに配慮した国内排出量取引の制度設計」, *Business & Economic Review*, 7月号. pp.65-80.
- 有村俊秀・杉野誠・武田史郎 (2011) 「国内排出量取引の国際リンクによる経済的影響に関する研究：応用一般均衡分析によるアプローチ」, 『環境研究』, No.161
- ※ Takeda, Shiro (2010) “A computable general equilibrium analysis of the welfare effects of trade liberalization under different market structures”, *International Review of Applied Economics*, Vol.24, No.1, pp.75-93.
<http://doi.org/10.1080/02692170903424307>
- ※ 武田史郎・川崎泰史・落合勝昭・伴 金美 (2010) 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減中期目標の分析」, 『環境経済・政策研究』, 第3巻, 第1号, pp.31-42.
- Takeda, Shiro (2007) “Economic Growth and Carbon Emissions with Endogenous Carbon Taxes”, 『関東学園大学経済学紀要』, 第34集, 第1号.
- ※ Takeda, Shiro (2007) “The double dividend from carbon regulations in Japan”, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 21, Issue 3, pp. 336-364.
<http://dx.doi.org/10.1016/j.jjie.2006.01.002>
- ※ Takeda, Shiro (2005) “The effect of differentiated emission taxes: does an emission tax favor industry?” *Economics Bulletin*, Vol.17, No.3, pp.1-10.
<http://www.accessecon.com/pubs/EB/2005/Volume17/EB-04Q20009A.pdf>
- ※ Takeda, Shiro (2001) “International Income Transfers under Technological Uncertainty”, *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol.42, No.2, pp.141-155.
<http://hdl.handle.net/10086/7696>

[報告書等]

- 2015年3月：『平成26年度・環境経済の政策研究・新たな市場メカニズムの国際比較及び二国間クレジット制度の排出削減効果等の分析：最終研究報告書』の第6章「セクター別クレジット・メカニズムの経済分析」、平成27年3月
- 2012年3月：『平成23年度環境経済の政策研究，日本における環境政策と経済の関係を統合的に分析・評価するための経済モデルの作成：最終研究報告書』の補論1「CGEモデルにおける技術進歩の内生化」，平成24年3月
- 2012年3月：『平成23年度環境経済の政策研究，国内排出量取引の国際リンクによる経済的影響に関する研究～応用一般均衡分析によるアプローチ～：最終研究報告書』の第2章「排出量取引の国際リンク及びCDMの経済分析」，平成24年3月

[その他論文]

- Saito, Muneyuki and Kato, Shinya and Takeda, Shiro, “Effects of Immigration in

Japan: A Computable General Equilibrium Assessment” (February 28, 2017). Available at SSRN: <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.2782708>

- Takeda, Shiro and Arimura, Toshi H. and Sugino, Makoto, “Labor Market Distortions and Welfare-Decreasing International Emissions Trading” (July 15, 2011). Available at SSRN: <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.1886200>
- 武田史郎・堀江哲也・有村俊秀 (2011). 「応用一般均衡モデルによる排出規制に伴う国境調整の分析」, 上智大学環境と貿易研究センター・ディスカッションペーパー, CETR DP J-11-2, 2011年3月
- 武田史郎・爲近英恵・有村俊秀・Carolyn Fischer・Alan K. Fox (2010) 「国際競争力及びリーケージ問題に配慮した排出量取引制度の設計：応用一般均衡分析による生産量に基づく排出枠配分の研究」, 上智大学環境と貿易研究センター・ディスカッションペーパー, 2010年4月, CETR DP J-10-2
- 武田史郎・川崎泰史・落合勝昭・伴 金美 (2009), 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減策の分析：中期目標検討委員会で用いたモデルと試算の解説」, JCER-Discussion Paper No.121
- 川崎泰史・落合勝昭・武田史郎・伴 金美 (2009) 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減策の分析：「温暖化タスクフォース」で用いたモデルに関する技術ノート」, JCER-Discussion Paper No.126.
- 武田史郎, 伴金美, (2008), 「貿易自由化の効果における地域間格差：地域間産業連関表を利用した応用一般均衡分析」.
- 武田史郎, 川崎泰史, 伴金美, (2007), 「温暖化対策分析用 CGE モデルへの新技術・新エネルギーの導入方法」. New ESRI Working Paper Series No.5. (裏面にうつく)
- 武田史郎, (2007), 「貿易政策を対象とした応用一般均衡分析」, 2007年3月, RIETI Discussion Paper Series 07-J-010.
- Takeda, Shiro and Kanemi Ban, (2008), “A CGE Analysis of CO2 Regulation in Japan with Consideration to New Energy and Technology”. Paper presented at International Forum of ESRI (Cabinet Office), Tokyo, March 7, 2008.
- Takeda Shiro, (2007), “Comparison of the Effects of Trade Liberalization under Different Market Structures”.

[書籍]

- 武田史郎 (2015) 「経済モデルを用いた気候変動政策分析」, 新澤秀則・高村ゆかり (編) 『シリーズ環境政策の新地平 2 気候変動政策のダイナミズム』, 岩波書店, 第 6 章, pp.125-145.
- 武田史郎・山崎雅人・森田稔 (2015) 「セクター別クレジット・メカニズムの経済分析」, 有村俊秀 (編) 『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム：二国間クレジット制度を中

心とした経済分析と展望』, 日本評論社, 早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書 41, 第 5 章, pp.111-145.

- 武田史郎 (2012) 「応用一般均衡モデルによる地球温暖化対策の分析: 有用性と問題点」, 有村俊秀・蓬田守弘・川瀬剛志 (編) 『地球温暖化対策と国際貿易: 排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』, 東京大学出版会, 第 1 章, pp.15-36.
- 武田史郎・有村俊秀・爲近英恵 (2012) 「排出量取引の制度設計による炭素リーケージ対策: 排出枠配分方法の違いによる経済影響の比較」, 有村俊秀・蓬田守弘・川瀬剛志 (編) 『地球温暖化対策と国際貿易: 排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』, 東京大学出版会, 第 3 章, pp.63-86.
- 武田史郎・堀江哲也・有村俊秀 (2012) 「日本の国境調整措置政策・炭素リーケージ防止と国際競争力保持への効果」, 有村俊秀・蓬田守弘・川瀬剛志 (編) 『地球温暖化対策と国際貿易: 排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』, 東京大学出版会, 第 4 章, pp.87-108.
- 有村俊秀・武田史郎 (編著) (2012) 『排出量取引と省エネルギーの経済分析: 日本企業と家計の現状』, 日本評論社.
- 秋葉弘哉編著, 『国際経済学』, 第 12 章「地球環境問題」を担当, ミネルヴァ書房, ミネルヴァ経済学テキストシリーズ.

[賞]

- 2010 年 9 月, 環境経済政策学会奨励賞

[学会発表・報告等]

- 2017 年 2 月 「排出量取引と自主的行動による CO2 削減の効果: 応用一般均衡モデルによる分析」, 「環境・エネルギー経済学・ワークショップ」, けいはんなプラザホテル, 2017 年 2 月 3 日 (金), 主催・早稲田大学・環境経済・経営研究所
- 2016 年 11 月 “A Computable General Equilibrium Analysis of Feed-in Tariff and Carbon Pricing in Japan”、早稲田・環境経済・経営研究所ワークショップ、「各国排出量取引制度の現状と展望」、2016 年 11 月 24 日 (木)、早稲田大学・早稲田キャンパス
- 2016 年 8 月 “A CGE Analysis of CO2 regulation and Renewable Energy Policy in Japan”, The Sixth Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics (EAAERE), August 7-10, 2016, Kyushu Sangyo University, Fukuoka, Japan.
- 2016 年 3 月 “A CGE Analysis of CO2 regulation and Renewable Energy Policy in Japan”, Workshop on Sustainable Energy Policy in the US and Japan:

- The Role of Renewable Energy and Energy Efficiency, Resources for the Future, March 11, 2016.
- 2015年10月 “Labor Market Distortions and Welfare-Decreasing International Emissions Trading”, Sri Lanka Economic Association: Annual Sessions-2015, 2015/10/31, Centre for Banking Studies, Central Bank of Sri Lanka, Rajagiriya, Colombo, Sri Lanka
- 2015年10月 「応用一般均衡モデルによる日本の外国人労働者受け入れの定量的分析」, 共著者: 齋藤宗之氏、加藤真也氏), 齋藤氏が発表, 日本経済学会 2015年度秋季大会, 2015/10/10, 上智大学四谷キャンパス.
- 2015年8月 “Labor Market Distortions and Welfare-Decreasing International Emissions Trading”, The 5th Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics (EAAERE), 2015/08/05-08, Campus of Academia Sinica, Taipei, Taiwan.
- 2015年3月 「セクター別クレジット・メカニズムの経済分析」, (共著者: 山崎雅人・森田稔), 『省エネ製品・技術の普及政策と課題—米国、ベトナム、日本の取り組み』ワークショップ, 2015/03/20, 早稲田大学
- 2015年1月 “A Computable General Equilibrium Analysis for Economic Evaluation of Zud Event”, (Coauthors: Masataka Watanabe), “Adaptation for Climate Change and Green Development in Mongolia” Workshop, 2015/01/14, 中央大学.
- 2014年10月 “The effects of immigration on Japan: A computable general equilibrium assessment”, (共著者・齋藤宗之氏), 齋藤氏が発表。日本国際経済学会 73 回全国大会, 2014/10/25, 京都産業大学.
- 2014年9月 “A Computable General Equilibrium Analysis of Nuclear Phase-out and Feed-in Tariff in Japan”, (Coauthors: Masato Yamazaki, Toshi H. Arimura), 4th IAEE Asian Conference, 2014/09/19, GICC(Geosciences International Conference Center, China University of Geosciences), 中国・北京.
- 2013年11月 “A Computable General Equilibrium Analysis of Nuclear Shutdown and Feed-in Tariff in Japan”, (Coauthors: Masato Yamazaki, Toshi H. Arimura), 第 1 回早稲田大学・環境と貿易研究所シンポジウム, 『再生可能エネルギーと日米のエネルギー政策 ～応用一般均衡分析によるアプローチ～』 "Renewable Energy and US/Japanese Energy Policies: A Computational General Equilibrium Approach", 2013/11/08, 早稲田大学.
- 2013年9月 「応用一般均衡モデルによるクレジットメカニズムの分析」(共著者: 山

- 崎雅人), 環境経済・政策学会 2013 年大会, 2013/09/21-22, 神戸大学
- 2013 年 3 月 「不完全競争応用一般均衡モデルによる CO2 排出規制の分析」, 国際経済学会関西支部 2012 年度第 5 回研究会, 2013/03/23, 関西学院大学大阪梅田キャンパス
- 2012 年 12 月 「地球温暖化対策立案における経済モデルの利用」, 第 4 回 総合地球環境研究所・京都産業大学合同勉強会, 2012/12/20, 総合地球環境学研究所.
- 2011 年 12 月 “An Economic Analysis of Linking Domestic Emission Trading Schemes with a Dynamic CGE Model”, ZEW Workshop, Mannheim, December 13th, 2011.
- 2011 年 11 月 「動学的 CGE モデルによる国際間の排出量取引・CDM の分析」(共著者, 杉野誠・有村俊秀・山崎雅人), 日本経済研究センター・マクロモデル研究会, 2011/11/11-12. 日本経済研究センター.
- 2011 年 9 月 「応用一般均衡分析による温暖化対策の評価」, 環境経済政策学会, 2011 年度大会, 2011/9/23-24, 長崎大学
- 2011 年 9 月 「応用一般均衡分析による温暖化対策の評価」, 環境科学会, 2011 年度大会, 2011/9/8-9, 関西学院大学
- 2011 年 5 月 「CDM を利用した各国の排出量取引リンクの経済分析」(共著者, 杉野誠・有村俊秀), 環境経営学会, 2011 年度大会, 2011/5/28-29, 跡見学園女子大学
- 2011 年 5 月 “Labor Market Distortions and Welfare-Decreasing International Emissions Trading”, (Coauthors: Makoto Sugino, Toshi Arimura), 日本経済学会 2011 年度春季大会, 2011/5/21-22, 熊本学園大学
- 2010 年 11 月 “Economic Analysis of Linking Domestic Emission Trading Scheme” (Coauthors: Makoto Sugino, Toshi Arimura), Seminar at University of Hawaii.
- 2010 年 10 月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), IGES seminar, October 1st.
- 2010 年 9 月 「温暖化政策の経済分析: 応用一般均衡分析のアプローチ」, 日本経済学会 2010 年度秋季大会, 2010 年 9 月 18・19 日, 関西学院大学
- 2010 年 9 月 「各国排出権市場の国際リンクの経済分析」(共著者, 杉野誠・有村俊秀), 環境経済・政策学会 2010 年, 名古屋大学, 2010 年 9 月 11 日・12 日
- 2010 年 8 月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura,

- Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), The 1st Congress of East Asian Association of Environmental and Resource Economics, August 17-19, 2010, Sapporo, Japan.
- 2010年6月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), Fourth World Congress of Environmental and Resource Economists, June 28 to July 2, 2010, Montreal, Canada.
- 2010年5月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), 2010年度環境経営学会研究報告大会, 東京大学駒場キャンパス
- 2010年3月 「温暖化対策の経済分析：新技術・新エネルギーの導入と評価」, 平成21年度農村工学研究所研究会
- 2010年2月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), Carbon Policies, Competitiveness, and Emissions Leakage: An International Perspective Workshop co-sponsored by Resources for the Future (RFF), Sophia University, and the U.S. Environmental Protection Agency (EPA).
- 2009年11月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), 上智大学・環境と貿易研究センター第二回ワークショップ
- 2009年9月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), Resources for the Future Lunch seminar.
- 2009年9月 「中期目標検討委員会」における日本経済研究センター CGE モデルについての解説 (共著者, 川崎泰史, 落合勝昭, 伴金美), 環境経済・政策学会 2009年大会 (千葉大学)
- 2008年5月 「貿易自由化の効果における地域間隔差：地域間産業連関表による応用一般均衡分析」 (共著者, 伴金美), 日本経済学会 2008年度春季大会, 東北大学
- 2008年4月 「貿易自由化の効果における地域間隔差：地域間産業連関表による応用

- 一般均衡分析」(共著者, 伴金美), RIETI DP 検討会, RIETI
- 2008年3月 “A CGE Analysis of CO2 Regulation in Japan with Consideration to New Energy and Technology” (伴金美氏との共同論文), 「ポスト京都議定書」の政策課題に関する国際共同研究, 研究報告会, 平成20年3月7日, 三田共用会議所, 内閣府経済社会総合研究所 (ESRI) 主催.
- 2007年11月 「貿易自由化の効果における地域間隔差: 地域間産業連関表による応用一般均衡分析」(共著者, 伴金美), 第六回国際経済セミナー, 一橋大学
- 2007年10月 「温暖化対策分析用 CGE モデルへの新技術・新エネルギーの導入方法」. (川崎泰史氏, 伴金美氏との共同論文), 内閣府経済社会総合研究所報告会
- 2007年3月 「貿易政策を対象とした応用一般均衡分析」, RIETI DP 検討会, RIETI
- 2005年10月 “A CGE analysis of Japanese FTAs under Different Market Structures”, 日本国際経済学会, 立命館大学
- 2005年6月 “A CGE analysis of Japanese FTAs under Different Market Structures”, 日本経済学会, 京都産業大学
- 2004年7月 「応用一般均衡分析による日本の FTA の評価」, 第四回国際経済セミナー, 一橋大学
- 2004年6月 「二酸化炭素排出規制における二重の配当の可能性: 動的応用一般均衡分析による評価」, 日本経済学会春期大会, 明治学院大学
- 2000年9月 “The Effects of Differentiated Emission Taxes”, 日本経済学会秋季大会, 大阪府立大学
- 1999年10月 “International Income Transfers under Technological Uncertainty”, 日本経済学会秋季大会, 東京大学

[研究資金等]

- 2015年4月ー: 文部科学省, 科学研究費, 基盤研究 (C), 研究課題名「応用一般均衡モデルによる温暖化対策、及び原発削減の分析」
- 2012年ー2014年3月: 環境省, 「環境経済の政策研究: 新たな市場メカニズムの国際比較及び二国間オフセット・クレジットメカニズムの排出削減効果等の分析」
- 2012年ー2014年3月: 文部科学省, 科学研究費, 基盤研究 (C), 研究課題名「応用一般均衡モデルによる温暖化対策の分析」
- 2009年ー2012年3月: 環境省, 「環境経済の政策研究: 日本における環境政策と経済の関係の統合的な分析・評価のための研究」
- 2009年ー2012年3月: 環境省, 「環境経済の政策研究: 国際的な排出量取引による経済的影響に関する研究」
- 2007年ー2008年: 文部科学省 科学研究費 (若手 B) (2007ー2008年度), 研究課題

名：「日本における環境税（炭素税）導入のシミュレーション分析」

[学会]

- 日本経済学会（1999－）
- 日本国際経済学会（2000－）
- 環境経済政策学会（2009－）
- 環境経営学会（2010－）
- エネルギー・資源学会（2015－）
- 環境科学会（2017－）
- International Association of Energy Economics（2014－）

[レフリー活動]

- Environment and Development Economics
- Hitotsubashi Journal of Economics
- Environmental Economics and Policy Studies
- Journal of the Japanese and International Economies
- 環境経済・政策研究
- 応用地域学研究
- 社会経済研究

[その他の活動]

- 2009年4月－2011年3月：上智大学、「環境と貿易研究センター」のプロジェクトに参加。
- 2009年2月・3月：政府「中期目標検討委員会」下の「モデル分析ワーキングチーム」に日本経済研究センターを通して参加。CGE分析を担当。